会　議　記　録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により，次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第２回高松市創造都市推進審議会
開催日時	平成 24 年 11 月 17 日(日)　13 時 30 分～15 時 30 分
開催場所	Café　Style　Hazuki
議　　題	⑴　高松らしい創造都市像について ⑵　ワールドカフェ ⑶　その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長，植松委員，佃委員，西成委員，荒木委員 木村委員，中西委員，原田委員，三井委員，小西委員 橋本委員，徳増委員，瀧澤委員，広野委員，松山委員
傍聴者	０　人　　（定員　１０　人）
担当課および連絡先	商工労政課商工係 ８３９－２４１１

審議経過および審議結果
(1)　第１回審議会の振り返り 事務局から，資料２第１回審議会議事録を説明した。 (2)　本市の創造都市に係る現状整理 事務局から，資料３～５に基づき，本市の創造都市に係る現状整理について説明した。 (3)　議題 ①　高松らしい創造都市像について 事務局より資料６を説明した。 ②　ワールドカフェについて 事務局より，参考資料「ワールドカフェの進め方」を説明し，３グループに分かれて，ラウンド１・ラウンド２のテーマに基づき各２５分話し合い，最後に１５分発表を行った。 【ワールドカフェ】 (会長)それでは，Ａグループから，ラウンド１「高松らしい創造都市とはなにか」について，ラウンド２「クリエイティブな場づくり」について発表をお願いする。 (委員)ラウンド１では，農業や伝統工芸の担い手をどのように育てるかが話題になった。高松の特徴は「非常に小さい」こと。その「小ささ」が重要なキーワードとなる。そのためには，見えない物も含めて，どう引き出すかが重要。高松は日本で唯一無二の城下町の形式を持っている。それを活かしたまちづくりを進めていけば良い。 ラウンド２では，どのように創造都市をコーディネートしていくか，そのための場をどう作っていくかが話題になった。具体的には，例えば工芸に携わる職人について，どのようなネッ

審議経過および審議結果
トワークを作って，呼んでくるかということがポイントになる。 （会長）次に，Bグループ，ラウンド１「高松らしい創造都市とはなにか」について，ラウンド２「クリエイティブな人材の確保」について発表をお願いする。 （委員）　ラウンド１では，高松市の特徴として，日本一長い商店街が存在していることが私たちの自負であり誇りであることが話題になった。どこかの商店や商店街が一人勝ちをするのではなく，小さな店がたくさん集まることで付加価値を生み出しており，個性につながっている。外から高松にやって来る移住者が増えている。他都市と比べて給料は高くないが，あえて高松を選んでいるということは，高松には今の時代の人たちが望んでいる生活スタイルを実現できる土壌があるのではないか。それはある種の緩さ，ネットワークの心地良さである。災害も少なく，経済が低調でも生活には困らないため，ある種のゆとりがある。そのため，じっくり物事を考えられる土壌がある。そのため，新しいものが生まれ，それを様々な人がネットワークを通じて育てていく。これが高松の魅力である。 　ラウンド２では，中心部と郊外部の連携が１つのテーマであることを確認した。例えば農業の担い手が減っている中，その地域に道の駅を作ることはもちろんだが，地域内部で完結するのではなく，農産物をまちなかに多くあるマルシェに持っていくこともできる。また，マルシェ間のネットワークを作り，その循環を推進することもできる。例えば農業をやりたいが販売に興味がない人，販売に興味はあるが農業はやりたくない人を繋げる包括的な場づくりをどうしていくかがポイント。その場を繋げていく人材をどう確保・育成していけば良いか。その研究を進める必要があるのではないか。 （会長）　次に，Cグループ，ラウンド１「高松らしい創造都市とはなにか」について，ラウンド２「国内・海外に向けた情報発信」について発表をお願いする。 （委員）　ラウンド１では，我々だけでも「高松らしさ」を追求することが大事であると確認した。議論の大半がお互いの仕事や取組の話になったが，様々な分野の話題を通じて，高松らしい創造都市を目指せば良い。話の大筋としては，事業主の協働を踏まえながら，様々なイベントを開催していけば良いという結論になった。 　ラウンド２では，様々な情報ツールがある中，情報の質・目的・ターゲット等で情報ツールの使い方が変わってくる。今は Facebook が流行っているが，目的に応じた情報の流し方を考えなければならない。情報発信についても目的をしっかり持つべきである。 ③会長コメント （会長）　各グループの発表を聞いていて，高松というのは適度な小ささ，程よい大きさを持っている。それが創造都市の可能性に近いと改めて思った。 　人材をどう育てていくか。日本は幼稚園の段階から感性教

育を行っているが，小学校，中学校，高校，大学と進学するにつれて，専門性が高くなり過ぎている。それもあって，感性が十分に育たないという側面がある。高松モデルとして，創造的人材を育てるコースを提案していくのも面白い。

２週間ほど前，創造都市推進局の Facebook ページが立ち上がっていることを知った。それならば，審議会メンバーの中でも Facebook でページを立ち上げて，情報交換してはどうか。会議は１～２か月に１回となるので，その間に情報交換や経験共有をすれば，次の会議までの積み上げができる。工夫をしてほしい。

次の会議は長めの時間で開催できると良い。進め方や場所について，みなさんの提案を頂いて改善していきたい。

(4)　閉会

（事務局）第３回審議会は平成２５年１月２７日に開催する。場所については，決まり次第連絡させていただく。

それでは，以上で閉会する。

本日はありがとうございました。

以上